

公益社団法人 日本水産学会  
平成 26 年度第 5 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 26 年 9 月 19 日(金) 9 時 30 分～14 時 33 分
- 2 開催された場所 国立大学法人九州大学箱崎キャンパス  
共通講義棟 305 教室(福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1)
- 3 理事総数及び定足数  
総数 17 名、定足数 9 名
- 4 出席理事数 17 名  
(本人出席) 吾妻行雄、荒井克俊、荒井修亮、飯田貴次、香川浩彦、金子豊二、  
木島明博、嵯峨直恆、青海忠久、関 伸吾、東海 正、時村宗春、  
古谷 研、松山倫也、山下 洋、渡邊良朗、渡部終五  
(途中出席) 木島明博(定足数確認後の 9 時 33 分に着席)  
(監事出席) 青木一郎、瀬川 進  
(幹事出席) 遠藤英明、田代有里、石田真巳、鈴木美和、塩出大輔  
(途中退席) 松山倫也(定足数確認後の 9 時 33 分～報告事項 第 4 回理事会以降の職務執行報告  
中の 13 時 10 分まで退席)  
(オブザーバー) 伊藤文成(理事候補者)、佐竹幹雄(理事候補者)
- 5 議 案  
決議事項 第 1 号議案 「職員給与規程及び職員育児・介護休業規程の一部改正」の件  
第 2 号議案 「短時間勤務有期雇用職員の賞与(平成 26 年度冬季)」の件  
第 3 号議案 「関東支部運営規程及び大会規程の一部改正」の件  
第 4 号議案 「学会賞授賞規程の一部改正及び学会賞選考委員会運営規程の新設」の件  
第 5 号議案 「寄附金の使途」の件  
第 6 号議案 「シンポジウム企画委員会委員交代」の件  
第 7 号議案 「出版委員会委員辞退」の件  
第 8 号議案 「水産利用懇話会委員会委員追加」の件  
第 9 号議案 「水産学若手の会(特別委員会)委員追加」の件  
第 10 号議案 「平成 27 年度春季大会委託運業者」の件  
第 11 号議案 「平成 27 年度春季大会募金目論見書」の件  
第 12 号議案 「平成 27 年度春季大会における要旨集の配布方法と参加費の一部変更」の  
件  
第 13 号議案 「平成 28 年度春季大会担当機関」の件  
第 14 号議案 「平成 28 年度秋季大会担当支部」の件  
第 15 号議案 「水産学若手の会(特別委員会)からの要望書」の件  
第 16 号議案 「日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委  
員長・委員選出」の件  
第 17 号議案 「日本学術会議主催公開シンポジウム募金目論見書」の件  
第 18 号議案 「創立 85 周年記念事業の計画」の件  
第 19 号議案 「幹事手当増額」の件  
第 20 号議案 「第 13 回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件  
第 21 号議案 「2014 年度朝日賞(自然科学)受賞候補者推薦」の件  
第 22 号議案 「共催、協賛及び後援の取り扱い」の件  
第 23 号議案 「協賛」の件  
第 24 号議案 「入会承認」の件

## 第 25 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 第 4 回理事会以降の職務執行の状況  
その他

### 6 議事の経過及びその結果

#### (1)平成 26 年度秋季大会委員長の挨拶

渡部会長の挨拶の後、九州大学 松山倫也 大会実行委員長より挨拶があった。本大会では、口頭発表 370 題とポスター発表 149 題で発表総数 519 題、シンポジウム 2 件、ミニシンポジウム 3 件、研究会主催の講演会 3 件及び高校生のポスター発表 15 件が行われるとの報告がされた。

#### (2)定足数の確認等

渡部会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

#### (3)議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

##### (決議事項)

#### 第 1 号議案 「職員給与規程及び職員育児・介護休業規程の一部改正」の件(別紙 1)

東海総務担当理事より、職員給与規程及び職員育児・介護休業規程の一部改正について説明があった。審議の結果、原案を一部字句を修正した上で、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

#### 第 2 号議案 「短時間勤務有期雇用職員の賞与(平成 26 年度冬季)」の件

渡邊財務担当理事より、短時間勤務有期雇用職員の賞与について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第 3 号議案 「関東支部運営規程及び大会規程の一部改正」の件(別紙 2)

東海総務担当理事より、関東支部運営規程及び大会規程の一部改正について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

なお、春季大会における関東支部の運営機関が 6 機関となったことから、今後の春季大会の運営方法について、各支部において意見聴取を行い、次回理事会において検討することとなった。

#### 第 4 号議案 「学会賞授賞規程の一部改正及び学会賞選考委員会運営規程の新設」の件(別紙 3)

荒井(克)学会賞担当理事より、学会賞授賞規程の一部改正案及び学会賞選考委員会運営規程の新設について説明があった。また、東海総務担当理事より、これについての追加説明があった。審議の結果、原案を一部修正の上、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

#### 第 5 号議案 「寄附金の使途」の件(別紙 4)

渡邊財務担当理事より、寄附金の使途について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

香川理事「公1、公2、共通、法人の違いは何か。」

東海理事「公益認定等評価委員会への報告の予算分類がこのようになっている。研究発表会及び学術講演会等の開催と研究業績の表彰を公1として、学会誌及び学術図書の刊行を公2としてとりまとめている。」

金子理事「寄付者が使途を指定してしない場合は共通としている。ただし、その半分以上を公1、公2で使わねばならない。」

#### 第 6 号議案 「シンポジウム企画委員会委員交代」の件

東海総務担当理事より、シンポジウム企画委員会委員交代について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[選出] 山田秀秋

[辞退] 青野英明

第7号議案「出版委員会委員辞退」の件

東海総務担当理事より、出版委員会委員辞退について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[辞退] 森 徹

第8号議案「水産利用懇話会委員会委員追加」の件

東海総務担当理事より、水産利用懇話会委員会委員追加について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

委員 佐藤 繁

第9号議案「水産学若手の会(特別委員会)委員追加」の件

東海総務担当理事より、水産学若手の会(特別委員会)委員追加について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

委員 小島大輔、馬久地みゆき、吉永龍起、橋本加奈子

第10号議案「平成27年度春季大会委託運営業者」の件

時村関東支部担当理事より、平成27年度春季大会委託運営業者について、数社の見積もりを検討した結果、トーヨー企画(株)に決定したいとの提案があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第11号議案「平成27年度春季大会募金目論見書」の件

時村関東支部担当理事より、平成27年度春季大会募金目論見書の案をもとに、平成27年度日本水産学会春季大会実行委員会において平成26年10月3日から平成27年2月28日までの間、寄附(協賛)金の募集を行う旨説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第12号議案「平成27年度春季大会における要旨集の配布方法と参加費の一部変更」の件

時村関東支部担当理事より、平成27年度春季大会における要旨集の配布方法としてPDFファイルのダウンロードによるものを加えること、及び冊子体の要旨集を希望しない者の参加費を500円減額することについて提案があった。また、東海理事より、各会場の無線LANの整備状況および要旨のPDF配布に関する検討結果について説明があった。

本議案について以下の質疑応答があった。

渡部会長「要旨集は図書館等での保存の希望があるので、冊子体の作成も継続するのか。」

東海理事「図書館での保存や業績等の確認用として、冊子体が必要な場合が想定されるため、今後も冊子体は必要であると考え。」

古谷理事「無線LANのキャパシティは充分なのか。」

東海理事「1ステーションにつき、50回線くらいは可能だと思う。」

古谷理事「教室の大きさによって回線数の違いはあるのか。」

東海理事「同じであったと思う。」

荒井(克)理事「PDF要旨は、大会期間中だけのダウンロードになるのか。」

東海理事「まだそこまで詰めていないが、ダウンロードサイトとして想定される大会ホームページが大会終了後に閉鎖されているので、そうなると考えられる。ただし、大会以降もダウンロードの希望が有る場合は、学会ホームページからダウンロード可能とする方法もあると考えている。」

荒井(克)理事「できれば、その方向を希望する。」

東海理事「PDF要旨は誰でも見られるようにしたらどうか、という意見もあった。しかし冊子体を3500円で販売しているので、期間中は抑えた方がよいという意見もあった。」

青海理事「3500円で販売されている冊子体要旨の販売数はどれくらいか。」

東海理事「前回の春の大会では89冊販売され、31万円の売り上げがあった。」

金子理事「冊子体は 3500 円で、冊子体を購入しない PDF ファイルの場合は 500 円のみ減額というのとは妥当な金額なのか」

東海理事「試算によれば 1000 円減額すると赤字になる。」

金子理事「減額しないで PDF ダウンロードするのはいかがか。」

古谷理事「編集等の手がかかっているため 500 円程度の減額は意味があると思う。」

荒井(克)理事「大会後のダウンロードについては、新たな経費がかかるのか。」

東海理事「日本水産学会のホームページにファイルを置くことにはコストはかからない。J-STAGE 上に置く場合は、編集にお金がかかるが、必要な経費は見積りをとって見ないと分からない。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第 13 号議案 「平成 28 年度春季大会担当機関」の件

時村関東支部担当理事より、平成 28 年度春季大会は水産総合研究センター中央水産研究所と日本大学生物資源学部が担当機関となり、主担当は中央水産研究所で、会場は東京海洋大学とする旨提案があり、審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第 14 号議案 「平成 28 年度秋季大会担当支部」の件

荒井(修)近畿支部担当理事より、平成 28 年度秋季大会日程及び大会会場として、平成 28 年 9 月 8 から 11 日の間、近畿大学において開催を予定している旨提案があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。なお、大会委員長は次回理事会において提案することとした。

本議案に関連して、以下の質疑応答があった。

渡邊理事「平成 30 年春季大会担当機関は東大農ではなく、東大海洋研ではないか。」

渡部会長「確認しておく。」

#### 第 15 号議案 「水産学若手の会(特別委員会)からの要望書」の件

渡部会長から、水産学若手の会(特別委員会)からの二件の要望書について説明があった。

まず、春季大会におけるミニシンポジウムへの支援の要望については、海外から演者を招聘するための旅費の支援として、理事会から国際交流委員会に依頼して 5 万円、関東支部から 5 万円の計 10 万円が提案された。

また、時村関東支部担当理事からは、支部幹事会での議論では、関東支部への貢献を明確にする必要がある等の意見が出され、それを受けて、シンポジウム内容を再検討した修正案が若手の会から提示されたことから、学会本部と相談しながら支援することにしたとの説明があった。

本議案に関連して、以下の質疑応答があった。

古谷理事「演者をわざわざ海外から呼ぶ理由が要望書からは分からない。」

時村理事「若手の会に問い合わせたところ、現在、海外に行っている人のホットな情報が得られること及び演者が女性研究者の立場で情報提供できるという理由が説明された。」

古谷理事「その内容を要望書に盛り込んでほしい。」

荒井(修)理事「この演者が活躍している機関は世界中から若手が集まる場所なので、ホットではある。」

古谷理事「それも要望書に盛り込んでほしい。」

渡部会長「若手の会の担当者にコメントを伝える。」

東海理事「若手の会の中でしっかり議論して運営してほしい。」

香川理事「来年度以降は若手の会の支援の予算組をするのか。」

渡部会長「その予定はない。その都度理事会に諮って検討したい。今回の様子を見て決めたい。予算化するのはまだ時期が早いと考える。」

香川理事「九州支部では若手の会の設立の動きがあり、支部に支援の要望が来ている。」

渡部会長「それは支部で判断していただきたい。支部ではなく、全体での場合は理事会で対応す

べきだと考える。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。なお、渡部会長から全額負担はしない根拠として、これまで海外から招聘する場合、国際交流委員会で旅費は支援しているが、登録料や参加費などは自己負担をお願いしている例があることが説明された。

次に、若手の会への参加呼びかけのための学会会員情報提供についての要望について、渡部会長から説明があった。また、東海総務担当理事より、日本水産学会のプライバシーポリシーについて紹介があり、本会のお知らせメールは希望者のみに配信していることが報告された。若手の会における個人情報管理及び若手への呼びかけ方については不明な点が多く、問題が生じる可能性があることから、議論保留とした。このことを若手の会に伝え、会長と総務担当理事とで協議して進めることとした。

#### 第16号議案「日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出」の件

東海総務担当理事より、日本学術会議主催公開シンポジウム実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

委員長 竹内俊郎

副委員長 佐藤秀一

委員 佐野元彦、森田貴己、八木信行

#### 第17号議案「日本学術会議主催公開シンポジウム募金目論見書」の件

東海総務担当理事より、日本学術会議主催公開シンポジウム募金目論見書について、寄附(協賛)金の募集を行う旨説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第18号議案「創立85周年記念事業の計画」の件

渡部会長から、創立85周年記念事業の計画について説明があり、特別委員会の組織案について提案があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

##### 事業組織委員会

委員長 渡部終五(現、会長)(会長交代時には新会長が務める)

##### 国際シンポジウム実行委員会

委員長 佐藤秀一(現、国際交流委員会委員長)

##### 資料編纂委員会

委員会 東海 正(現、総務担当理事)

##### 研究の動向編集委員会

委員長 古谷 研(現、副会長)

##### デジタル版水産用語辞典編集委員会

委員長 金子豊二(現、総務担当理事)

##### 記念式典実行委員会

委員長 青海忠久(現、副会長)

#### 第19号議案「幹事手当増額」の件

東海総務担当理事より、幹事手当について説明があり、業務量の多い企画広報委員会幹事ならびに庶務幹事(副)の幹事手当を現行の2万円から3万円に増額することが提案された。また、渡邊財務担当理事より、幹事手当増額に関する財務的な面からの説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 第20号議案「第13回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件

東海総務担当理事より、第13回日本農学進歩賞受賞候補者として下記の会員を推薦したことの説明があった。審議の結果、出席理事全員一致でこの推薦を可決した。

竹内 裕(海洋大)

「精原細胞移植技術を用いた海産魚における代理親魚技術の開発」  
第 21 号議案 「2014 年度朝日賞(自然科学)受賞候補者推薦」の件  
荒井(克)学会賞担当理事より、2014 年度朝日賞(自然科学)受賞候補者として下記の会員を推薦したとの説明があった。審議の結果、出席理事全員一致でこの推薦を可決した。

野口玉雄(東京医療保健大学)、荒川 修(長大水)、長島裕二(海洋大)、  
橋本周久(東大名誉教授)

「フグの毒化機構解明と無毒フグの作出」  
第 22 号議案 「共催、協賛及び後援の取り扱い」の件(別紙 5)  
東海総務担当理事より、共催、協賛、後援の取り扱いについて、現状と問題点について説明があり、これらの取り扱いの申し合わせが提案された。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 23 号議案 「協賛」の件  
東海総務担当理事より協賛希望 3 件について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で以下の協賛を可決した。

第一回農業電化シンポジウム

主催 農業電化協会  
後援 農林水産省  
協賛 日本農業工学会 他 19 学協会  
日程 平成 26 年 10 月 3 日(金)  
場所 東京大学弥生講堂(東京都文京区)  
希望 協賛  
負担金 なし

第 14 回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油脂化学会  
協賛 日本農芸化学会 他 4 学会  
日程 平成 26 年 12 月 8 日(月)・9 日(火)  
場所 油脂工業会館(東京都中央区)  
希望 協賛  
負担金 なし

第 54 回中海海底工学フォーラム

主催 中海海底工学フォーラム運営委員会  
共催 東京大学生産技術研究所  
協賛 日本船舶海洋工学会 他 6 団体  
日程 平成 26 年 10 月 17 日(金)  
場所 東京大学大気海洋研究所講堂(千葉県柏市)  
希望 協賛  
負担金 なし

本議案に関連して、以下の質疑応答があった。

渡邊理事「は水産と関係しているのか。」

東海理事「調べたところ、当該機関は、農林水産省、経済産業省を主務官庁とする特例社団法人であったことであり、かつ本会会員が受賞した例もあるので問題ないと考えている。」

第 24 号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 25 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

第4回理事会以降の職務執行の状況

・庶務関係

東海担当理事より次の報告があった。

1) 協賛及び後援の件(平成26年6月30日書面決議)

a) 日本学術会議主催学術フォーラム「初等中等教育における海洋教育の意義と課題 海洋立国を担う若手の育成に向けて」を後援すること。

b) 2014年度日本冷凍空調学会年次大会を協賛すること。

2) 平成26・27年度会長指名理事候補者の諾否結果

[支部幹事 161名]

理事候補者	諾	否	無効
大越和加	94	1	0
伊藤文成	94	1	0
佐竹幹雄	94	1	0

3) 平成27・28年度学会賞選考委員会選挙結果

学会賞担当理事が選考委員となった場合、委員長に就任するのは避けてほしいとの依頼があった。

4) 除名者、資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更

青山善一(正会員、平成3年度除名)

井上清和(正会員、平成20年度除名)

南 誓子(正会員、平成25年度資格喪失)

ZHU, BEIWEI(外国会員、平成25年度資格喪失)

5) 平成26・27年度支部幹事の変更

九州支部

松岡達郎[選出]

有瀧真人[中国・四国支部に異動]

6) 事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程(平成26年度)

公益社団法人として会計処理及び総会を適切に行うために、遺漏なきように、1月末に決算処理をしておくことについて、各理事へ準備の依頼があった。

7) その他

支部担当理事に異動等があった場合でも、その支部に籍を残すようにして、できるだけ担当理事を継続してもらいという依頼があり、またその場合には、支部の運営に実質的に支障がないように支部長を別に選出することができることが紹介された。

・企画広報関係

金子担当理事より、平成26年9月21日(日)に企画広報委員会が開催されることが報告された。

・財務関係

渡邊担当理事 特になし

・編集関係

古谷担当理事より、次の報告があった。

1) 2015年度 Fisheries Science (81巻) のカバーページの写真とデザインの決定

「MOC-MOHT (multiple layer opening/closing - the Matsuda-Oozeki-Hu Trawl)

ネットの操業風景」

胡 夫祥(海洋大)

「養殖ビワマス: 醒井養鱒場で開発された全雌三倍体ビワマスで、

2012年8月に水産庁の確認を受けた」

菅原和宏(滋賀水試)

「能登半島における乾燥ワカメの生産」

木谷洋一郎(ヌールラン大)

「フグ毒結合タンパク質遺伝子を導入・発現したメダカ」

大嶋雄治 (九大)

「中国の日照市の漁港近くの露店で売っていたヒザラガイの干物」

東海 正(海洋大)

「クロマグロ卵」

高木 力(近畿大)

2) 平成 26 年度科研費国際情報発信強化事業について

- a) 英文総説の執筆者および Fisheries Science 誌の海外エディターの紹介があった。
- b) 平成 26 年 8 月 17 日(日)よりカナダ・ケベックシティにおいて開催されたアメリカ水産学会 144 周年次大会において、日本水産学会のプロモーション活動を行い、Fisheries Science 見本誌 1 号から 4 号まで各 10 冊、とグッズ等を配布した。

3) Fisheries Science 誌の 2013 年度インパクトファクターは 0.855 であった。

4) 平成 26 年 9 月 21 日(日)に編集委員会を開催する。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、平成 26 年 9 月 19 日(金)に学会賞選考委員会を開催する予定であることが報告された。

・シンポジウム関係

松山担当理事より、平成 26 年 9 月 19 日(金)にシンポジウム企画委員会を開催する予定であり、平成 27 年度春季大会および秋季大会において開催されるシンポジウムならびにミニシンポジウムについて検討することが報告された。また、これに関連して木島理事より平成 27 年度秋季大会において、東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)の企画でシンポジウムの開催を検討していることが報告された。

・出版関係

木島担当理事より、平成 26 年 7 月 9 日(水)に開催された第 1 回出版委員会およびメール審議について次の報告があった。

- 1) 水産学シリーズは No.179 まで刊行されており、今後は No.182 まで刊行される予定となっている。
- 2) 今後の水産学シリーズ(特に 85 周年記念号の企画)については、理事会での報告や他の委員会と連絡を行いながら検討していくことが確認された。
- 3) 副委員長に岡崎恵美子会員(海洋大)を選出した。

・水産技術誌監修関係

時村担当理事より、次の報告があった。

- 1) 学会賞選考委員会から「水産技術誌が日本水産学会の学術刊行物に含まれるかどうか」の問い合わせに対し、学術刊行物の位置付けで不都合はない旨回答した。
- 2) 第 7 巻は 2 号までの刊行予定である。
- 3) 第 1 回水産技術誌監修委員会が平成 26 年 9 月 24 日(水)に開催予定である。

・ベルソープックス関係

松山担当理事より、平成 26 年 6 月 27 日(金)に開催された第 1 回委員会において、ベルソープックスの今後の展開について議論が進められているとの報告があった。これについて金子理事より補足説明があり、今年度末でベルソープックス委員会の活動を終了し、出版委員会内にベルソープックス担当を置き、引き継ぐことを考えていること、出版社としては一定の知名度があったので「ベルソープックス」の名称を維持したい方針であることが報告された。

ここで、職務執行状況の報告を一時中断し、渡部会長から理事候補者の伊藤文成会員(水研セ)、佐竹幹雄会員(日本海洋事業)の紹介があった。

・国際交流関係



古谷担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 8 月 17 日(日) からカナダ・ケベックシティにおいて開催されたアメリカ水産学会 144 回年次大会に参加し、日本水産学会のプロモーション活動を行った。
- 2) イギリス諸島水産学会との学术交流協定を平成 26 年 8 月 19 日(火)に締結した。
- 3) 平成 26 年 8 月 18 日(月) にアメリカ水産学会 144 回年次大会と併催された第 2 回日英米水産学会合同シンポジウム”Common Challenges and Opportunities for Global Fisheries: An International Perspective”に参加し、日本水産学会から渡部終五会長、帰山雅秀会員、宮腰靖之会員、牧野光琢会員が講演した。
- 4) 平成 26 年 9 月 21 日(金)に国際交流委員会が開催予定である。

・水産教育関係

荒井(克)担当理事より、次の報告があった。

- 1) 第 2 回水産教育推進委員会が平成 26 年 9 月 20 日(金)に開催予定である。
- 2) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に勉強会を開催予定である。

・水産政策関係

山下担当理事より、平成 26 年 9 月 21 日(日)に水産政策委員会を開催予定であることが報告された。

・漁業・資源管理関係

渡邊担当理事より次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に漁業懇話会委員会を開催した。
- 2) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に第 64 回講演会を開催した。
- 3) 学部学生に対する奨励賞を平成 27 年度から新設することを検討している。

・水産利用関係

渡部担当理事より次の報告があった。

- 1) 第 1 回水産利用懇話会委員会が 6 月 20 日(金)に開催され、秋に講演会を水産総合研究センター中央水産研究所で開催することとなった。
- 2) 委員 1 名の氏名が名簿から漏れていたため、委員追加の審議を理事会に依頼した。

・水産増殖関係

木島担当理事より、平成 26 年 3 月 28 日(金)に開催された第 1 回水産増殖懇話会委員会において、平成 25 年度第 2 回講演会が天候の都合で延期となったことが報告された。

次いで、荒井(克)副担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に開催された第 2 回水産増殖懇話会委員会において、平成 27 年度秋季大会での講演会の内容が検討された。
- 2) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に、「西日本における海藻養殖の現状と課題」をテーマとして第 1 回講演会が開催された。

・水産環境関係

山下担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 3 月 27 日(木)に、シンポジウム「地震・津波から 3 年後の東北地方太平洋沿岸域の現状 天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱」を開催した。
- 2) シンポジウムと重なる時間帯に、別会場において類似テーマで勉強会が開催されたことから、できるだけこのような状況は今後避けるべきとの要望があった。
- 3) 平成 25 年度春季大会において開催された水産環境保全委員会企画シンポジウム「水産環境における放射性物質の汚染とその影響」の成果が、『海洋と生物』212 号(Vol.36, No.3)に 8 編の論文として掲載された。
- 4) 平成 26 年 9 月 19 日(金)に、企画研究会「有明海における二枚貝資源量回復をめざして、その現状と対策」を開催した。

次いで、松山副担当理事より、平成 26 年 9 月 19 日(金)に開催された水産環境保全委員会について、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年度春のシンポジウムについて
- 2) 平成 27 年春季大会期間中においてシンポジウムを開催予定であり、現在テーマを検討中である。
- 3) 平成 27 年度秋季大会期間中において開催を予定している研究会の内容を検討中である。
- 4) 平成 26 年度委員の交替があった。

・社会連携関係

嵯峨担当理事 特になし

・将来計画関係

古谷担当理事より、次の報告があった。

- 1) 85 周年事業の特別委員会が第 4 回理事会で承認された。
- 2) 前年度の理事会で提示された“水産学が今後の日本社会構築にどのような役割を果たすのか”については、今の段階では報告はない。

・男女共同参画関係

金子担当理事より、平成 26 年 9 月 20 日(土)に男女共同参画推進委員会が開催予定であることが報告された。

・北海道支部

嵯峨担当理事より、支部大会を函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催予定であることが報告された。

・東北支部

吾妻担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 7 月 26 日(土)から 8 月 1 日(金)の間、支部幹事会メール会議を開催し、平成 26 年 11 月 7 日(金)開催の支部大会のミニシンポジウムの内容を決定した。
- 2) 平成 27 年度秋季大会の準備進捗状況については、大会期間中に他学会も開催されるため、旅行代理店等を通して宿泊先の確保を進める。

・関東支部

時村担当理事より、平成 26 年 6 月 12 日(木)に開催された支部幹事会、及びその後の経過について次の報告があった。

- 1) 平成 27 年度の春季大会開催後に、関東支部内での春季大会運営担当機関の順番(東京海洋大学 B の順番を一つ遅らせるかどうか)については、平成 29 年度の支部幹事会で検討する。
- 2) 若手の会(特別委員会)から平成 27 年度春季大会期間中のイベント(i 出展企業のプレゼンテーション、ii ナイトポスター)の支援の要望があった。i については、関東支部から“若手の会からの要望”として理事会に提案し、検討していただくことを希望する。ii については、若手の会の独自企画として実施することとなった。
- 3) 都県の水産研究機関の研究ニーズに対応したシンポジウム等を開催する方針で、テーマによっては平成 27 年度の開催になる。水産総合研究センターが集約中である水産研究機関の研究ニーズのうち関東都県のニーズを見て判断する予定である。

以上の報告のうち、2)の“若手の会からの要望”について理事会終了後、業務執行会議において検討することとした。

・中部支部

飯田担当理事より、支部大会および研究発表会を平成 26 年 11 月 8 日(土)にしいのき迎賓館(金沢市)で開催し、一般研究発表、七尾湾の漁業に関するミニシンポジウム、支部幹事会、支部長賞および優秀発表賞の表彰、支部長賞記念講演を行う予定であることが報告された。

・近畿支部

荒井(修)担当理事より、支部例会を平成 26 年 11 月 22 日(土)に開催予定であり、2 題の特別講演を企画していること、一般講演においては若手研究者に優秀発表賞を表彰する計画があることが報告された。

・中国・四国支部

関担当理事より、支部大会および総会を平成 26 年 11 月 29 日(土)、30 日(日)に高知大学農学部において開催予定であり、支部大会では、研究発表会、養殖魚の付加価値化に関するシンポジウムを予定しているとの報告があった。

・九州支部

香川担当理事より、平成 26 年 7 月 26 日(土)に開催された支部幹事会について次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 11 月 8 日(土)に支部例会、公開シンポジウム「九州における攻めの水産業(戦略的養殖業)の現状と将来」を開催する。
- 2) これまで支部例会と支部大会を分けて開催してきたが、今後は年 1 回 2 日間の例会・大会として開催することが承認された。
- 3) 水産学若手の会の第 1 回目を 11 月に行う予定である。

・英文書籍監修委員会(特別委員会)

東海担当理事より、2014 年 8 月 14 日(木)にシュプリンガーとの英文書籍出版の契約締結完了および契約内容の概要について次の報告があった。

- 1) "Fisheries Science Series"という名称で、著作権は学会と出版社が有する。
- 2) 委員会は企画案を出版社に提案し、出版社が Peer review を行う。
- 3) 出版費用は出版社が持つ。
- 4) 出版社は原稿の英文校閲を行う。
- 5) 査読者への謝礼として、200 ユーロ分のシュプリンガーの書籍を寄贈する。
- 6) 編者は出版社と別途契約を結び、印税についてはここに明記される。
- 7) 出版社は、企画ひとつごとに学会へ報酬 50,000 円を支払う。

なお、現在 3 件の企画が進行中であることと、今後、委員会を特別とするか、常設とするか、あるいは既存の別の委員会に委ねるかを検討する必要があることが報告された。

本報告に関連して、以下の質疑応答があった。

古谷理事「年 2 冊を出版することを目標としているが、契約の拘束力はあるのか?」

東海理事「目標値であることで了解されている。」

古谷理事「出版が遅れた場合に罰金等はあるのか。」

東海理事「特にない。」

・庶務関係

東海担当理事より、庶務関係の追加報告として、会員管理のデータベースのバックアップをクラウド上に置く作業中であるが、会員管理ソフトの保守管理会社との契約時間が終了したため、契約を追加する旨の報告があった。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)

渡部会長から平成 26 年 9 月 19 日(金)に開催された委員会について、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年度秋季大会において東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)の企画でシンポジウムの開催を検討している。
- 2) 学会ホームページ内の災害復興支援拠点ページに最新の情報を掲載する。
- 3) 福島県への支援を進める必要があることから、福島水試とともにプロジェクトを立てる提案があったが、すでに多くの機関で行われているため調整の必要がある。
- 4) 平成 26 年度春季大会において、水産環境保全委員会主催の震災関連シンポジウムと企画広報委員会主催の勉強会の内容と開催日時が重複したため、今後は情報を整理して同じことにならな

いようにする必要がある。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海担当理事より、次の報告があった。

- 1) 日本学術会議主催の公開シンポジウム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて(第2回) - 日本学術会議の第二次提言を踏まえて - 」が水産・海洋科学研究連絡協議会の共催で開催予定である。
- 2) 平成26年11月17日(月)に第2回水産・海洋科学研究連絡協議会が開催予定である。
- 3) 生物多様性条約・名古屋議定書に関する最新情報がメールリストで発信されているので、今後、本会に情報を流すことを考えている。

以上の報告事項に関連して、追加で以下の質疑応答があった。

青木監事「シュプリングと学会との契約を編者に見せてもよいか?」

東海理事「問題ない。」

荒井(修)理事「水産総合研究センターが集約中である全国の水産研究機関の研究ニーズについて、例えば、近畿関係の結果を見せていただくことは可能か。」

時村理事「持ち帰って相談する。」

その他

・次回理事会の開催について

東海総務担当理事より、次回第6回理事会は平成26年12月6日(土)13時から、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時33分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成26年9月19日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事

監事

